

キックオフイベント オンラインセッション開催報告

イベント名 共催シンポジウム6B:スタートアップ・エコシステム

開催日時 6月22日 12:00~13:00

登壇者など

【座長】

片桐 豪志 (Deloitte Tohmatsu Science and Technology代表、有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 ガバメント&パブリックサービシーズ パートナー)

【演者】

- 森本 陽介 (Deloitte Tohmatsu Science and Technology、有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 ガバメント&パブリックサービシーズ マネジャー)
- 後藤 耀 (Deloitte Tohmatsu Science and Technology、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社 アナリティクス アナリスト)
- 薛雨晴 (Deloitte Tohmatsu Science and Technology、有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業本部 ガバメント&パブリックサービシーズ スタッフ)

【討論者】

- 清野 聡子 (九州大学大学院工学研究院・准教授)
- 渡邊 万里子 (東京理科大学経営学部・講師)

参加人数 66名

報告内容

欧米では、地域の産学官間のステークホルダーがネットワークを形成し、研究開発型ベンチャーを多数輩出する地域が注目されている。ところが、日本では研究機関や金融機関等のネットワークが不十分であるため、世界でもトップレベルの研究者・研究機関が活用できるような、持続的なイノベーションを創出するエコシステムが形成されていない。結果として、研究成果の社会実装がなかなか進まないという現状がある。デロイト トーマツ サイエンス&テクノロジー (DTST) と共催で進められた本セッションでは、様々なイノベーションに関するデータを可視化し、日本のイノベーション・エコシステムを取り巻く環境とその課題を議論した。イノベーションが進まない原因や地域のエコシステム、大学ごとのシーズ創出力についてのデータ分析などの題材が提示され、その上で討論者やフロアを含めた議論が行われた。大学・地域・企業との連携をどのように進めていくべきか、またその際に、何をエビデンスとしてどのような分析を行うべきかという点において示唆的なセッションであり、盛況であった。